

教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)

医師に求められる知識・技能・態度を、段階的、スムーズに修得できるように講義および医療実習・臨床実習を1学年次から6学年次まで継続的、かつ、らせん状の学修方法にて積み重ねていきます。

学修内容が真の効果的な学びとなるように講義は単なる一方向性の座学ではなく、教員との双方向性のやりとり、学生間の意見交換・議論などのアクティブ・ラーニングを6年間通して行います。また、6年間継続する医療実習および臨床実習では、常に、事前学習、実地体験、体験の振り返りのまとめとプレゼンテーションを行い、経験からの学びを深め、確実にそれらを身につけられるようにします。

これらによって修得された学びは、医学的知識を評価する試験だけではなく、シミュレーションを使った技能の評価、振り返り記述や多職種を含めた多方面からの態度評価など、多面的・複合的な方法によって学修成果の達成度を明らかにします。

- ・継続的にプロフェッショナルリズム科目を開講して、良き医療人としての在り方・資質について考え、目標を保ち続けるようにします。さらに行動科学も、プロフェッショナルリズム教育と連携し継続して行います。人間の行動をまず科学として捉え、さらに社会の中で患者・住民に寄り添う関係を考え、健康問題など予防医学的観点へ繋がる学修を目指します。(1学年次から4学年次までの継続的な学び)
- ・臨床の現場における学びを入学後早期から継続的に行うため、医療実習として、1学年次で早期体験実習、2学年次で地域社会医学実習、チーム医療実習、外来案内実習、3学年次で地域包括ケア実習を実施し、その後、4～6学年次で臨床実習を実施します。医療実習および臨床実習では、医学知識のみならず医師としての人間性を涵養します。(1学年次から6学年次までの継続的な学び)
- ・臨床実習期間中に定期的に総合医学の講義を実施し、臨床実習で経験した学びの振り返りとその学びの共有および定着を行います。(5・6学年次の学び)
- ・1学年次には、医学の基礎となる知識と概念を得るために医学に沿った自然科学科目とリベラルアーツを開講し、さらにアカデミックリテラシーによるICT(Information and Communication Technology)やアクティブ・ラーニングから自学自習の習慣をつけます。
- ・医学に沿った理数系科目と相互連携のうえで、1学年次から解剖学、生化学および生理学を開講し、早期から基礎医学領域の学びを開始することで、医学への関心を刺激し学習意欲を高めます。
- ・1学年次初期に行う早期体験実習では、プロフェッショナルリズムの一環として、目指すべき医療人、医療のあり方を理解するようにします。
- ・2学年次後学期までに解剖学、発生学、生理学、生化学、薬理学、病理学、免疫・寄生虫学および微生物学の基礎医学の講義・実習を実施し、臨床医学のための基礎を早期に築き上げることを目指します。
- ・2学年次で行う地域社会医学実習、チーム医療実習および外来案内実習では、社会

的存在としての患者，患者をケアする医療チームのあり方を体験します。

- ・ 3 学年次前学期に社会医学系科目である公衆衛生学，衛生学，法医学および地域医療総合医学を実施し，患者を一人の人間，また社会の中で生活する住民として広い視野から理解できるように講義と地域医療機関での実習を連動させます。
- ・ 3 学年次で行う地域包括ケア実習では，超高齢社会での医療供給体制と社会に対する医療の責任についての理解を深めます。
- ・ 3 学年次後学期からは，臨床医学の基礎となる症候学，診断学および検査学を臨床医学総論で集中的に学び，臨床講義の理解の基盤を作ったうえで，各科目を集中的に学修する臨床講義を 1 年間実施します。また，医療安全および医療と倫理を実施し，医療の実践に必要な態度を学びます。講義の最終日には科目毎に知識の定着を評価し，このことで継続的な自主学習も促します。
- ・ 4 学年次前学期で臨床講義は終了し，後期の始めに CBT (Computer-Based Testing) を実施し，臨床実習に参加できる医学知識が身についているかどうかを総括的に評価します。
- ・ CBT 後には，臨床実習に臨むための診断学，臨床・診断推論の知識，技能の修得のため，臨床実習入門を講義および演習・実習にて実施します。
- ・ 臨床実習入門後には，実際の診療のための手技を修得する基本手技・医療面接実習を実施し，この実習の総括的な評価を OSCE (Objective Structured Clinical Examination；客観的臨床能力試験) にて実施します。これに合格した学生のみが臨床実習に参加することができます。
- ・ 臨床実習前に，地域医療早期体験実習を行います。地域社会の中における医療の理解をさらに深め，4 学年次後学期からの大学病院での臨床実習にて常に地域社会を意識できるようにします。
- ・ 4 学年次後学期から計 72 週の診療参加型臨床実習を行います。臨床実習は，必修診療科ローテーションと選択診療科ローテーションの組み合わせにて実施します。大学病院の他，教育協力病院など地域医療機関での実習で多様な体験をし，大学病院と地域医療機関との連携についても理解をし，コモンディゼーズを診るプライマリ・ケアから高度先進医療まで幅広い診療技能を学修します。
- ・ 臨床実習期間中には，臨床実習試験および総合試験 A を実施し，臨床実習で修得した医学知識の評価を行います。
- ・ 臨床実習の診療技能評価は，PCC-OSCE (Post Clinical Clerkship OSCE：臨床実習後 OSCE) にて実施し，本学独自の技能評価法も取り入れます。
- ・ 臨床実習試験，総合試験 A に合格した学生のみが 6 学年次後学期に総合試験 B を受験し，6 年間の医学知識の総括的評価に臨みます。
- ・ PCC-OSCE 及び総合試験 B の両者に合格することによって，本学医学部を卒業する資格を得ることができます。